

## 5. 鳥獣害のない里山を作り多様な価値を生む農業を推進する

( ) 内は前年度当初予算

### (1) 鳥獣被害対策のモデル構築に向けた取組推進

9億1,559万円（8億9,106万円）

安心と共生のニホンザル対策に向け、各種団体による創意あふれるアイデアを募集し、優れた対策を県内へ横展開を行うとともに、GPSを活用した行動域のモニタリングを行うなど、獣種の生態に応じた被害対策モデルを構築。

### (2) 有機農業の推進など農業の高付加価値化への対応

1億5,502万円（2,952万円）

想定外の高温による生育障害や病虫害被害などを回避する栽培技術の開発を行うほか、環境負荷を軽減し持続可能な農業の実現に向けた、有機農業の研修会やオーガニックマルシェの開催、有機農業者が取り組む普及事業等への支援などを実施。

### (3) 農泊・ジビエなど中山間地域の魅力を生かした農村の活性化

8,250万円（8,734万円）

ぎふの農村の魅力を生かした体験とボランティア活動をセットにした滞在型プログラム「GIFU-DO農泊」による都市農村交流の促進や、薬草の魅力を発信するフェスティバルの開催、ジビエの消費拡大支援などにより農村地域の活性化を促進。

### (4) 農業を支える多様な人材の育成・確保

1億1,897万円（1億362万円）

農業経営の継承に係る優良事例の紹介、継承希望者とのマッチングなどの支援を行うとともに、多様な担い手の確保・育成に向けた女性、外国人材の確保の推進、非農業者向けのスマート農業機械操作研修等を実施。

### (5) 県産農畜水産物の輸出拡大と大都市圏の販売促進の強化

1億810万円（1億680万円）

県産農畜水産物の輸出拡大に向け、海外プロモーションや商談会への参加支援、県産農畜水産物を専門に扱う輸出事業者を育成するとともに、大都市圏の需要拡大に向け、大阪・関西万博を訪れる観光客等にPRするためのメニューフェアなどを実施。

## ○今後検討を進める施策

- 近隣県や市町村との連携により、ニホンザル、イノシシ、ニホンジカ、ツキノワグマといった害獣の個体把握を行うとともに、特定の群れや個体に発信機を装着させ、ドローンや人工衛星等を活用して地域単位で鳥獣害対策を行える体制を整備する。
- 広域の狩猟チームを編成するとともに、里山の手前で撃退する方法を確立するため、専門チームによるビジネスモデルの確立を行う。
- 山間地域におけるニホンザルやイノシシ等の居場所を確保するため、山頂付近において針葉樹から実のなる広葉樹への計画的な転換を推進する。
- 畜産から排出される堆肥を活用した小規模多品種栽培を行う「地消地産」を基本とする高付加価値な有機、無農薬の環境調和型農業を推進する。
- 県外在住者も参加可能な体験型農業施設（アグリパーク）を整備し、教育、健康維持、観光としての高付加価値農業を実現する。